余市町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

余市町の主な地域間交通バス路線は、国道5号と国道229号を経路としており、幹線バス3路線、高速バス4路線が運行されているが、町内の生活交通手段である路線は「余市協会病院線」の1路線のみで、年々輸送人員が減少し、費用は増加するという状況が続いていた。
今後とも運行を維持をするため住民のニーズに合った運行内容へと見直し、輸送効率を向上させていくことにより、地域内の余市循環線を維持し、幹線交通や今後の郊外部の交通と接続をしていくことで、主に市街地の通勤利用や、高齢者、高校生などの交通弱者の生活交通が確保され、効率的な公共交通体系が実現できると考える。

地域公共交通の現況

・JR函館本線（余市駅）
・バス（高速4路線・幹線3路線・地域内3路線（他町村2路線+余市循環線1路線）
・スクールバス（3路線）
・タクシー（1社）

生活交通確保維持改善計画の目標

年間輸送人数：17,350人
収益率：55%
行政負担額：1,950千円
バス事業者負担額：0千円
【車両減価償却費等国庫補助金の目標も同じ】

協議会開催状況

R4年6月17日　第16回協議会開催
主な協議事項：地域公共交通計画の改定・余市循環線について
R5年1月18日　第17回協議会（書面開催）
主な協議事項：地域公共交通確保維持改善事業の事業評価

令和４年度事業概要

運行系統名：余市循環線
運行区間：①余市循環線（登校便）：余市駅前-余市協会病院-余市紅志高校②余市循環線（通常便）：余市駅前-余市協会病院-余市駅前③余市循環線（下校便）：余市紅志高校-余市協会病院-余市駅前
運行回数：合計549回（①152.5回、②183回、③213.5回）
運賃：200円（法定協議運賃）＊小児運賃有り
【車両減価償却費等国庫補助】

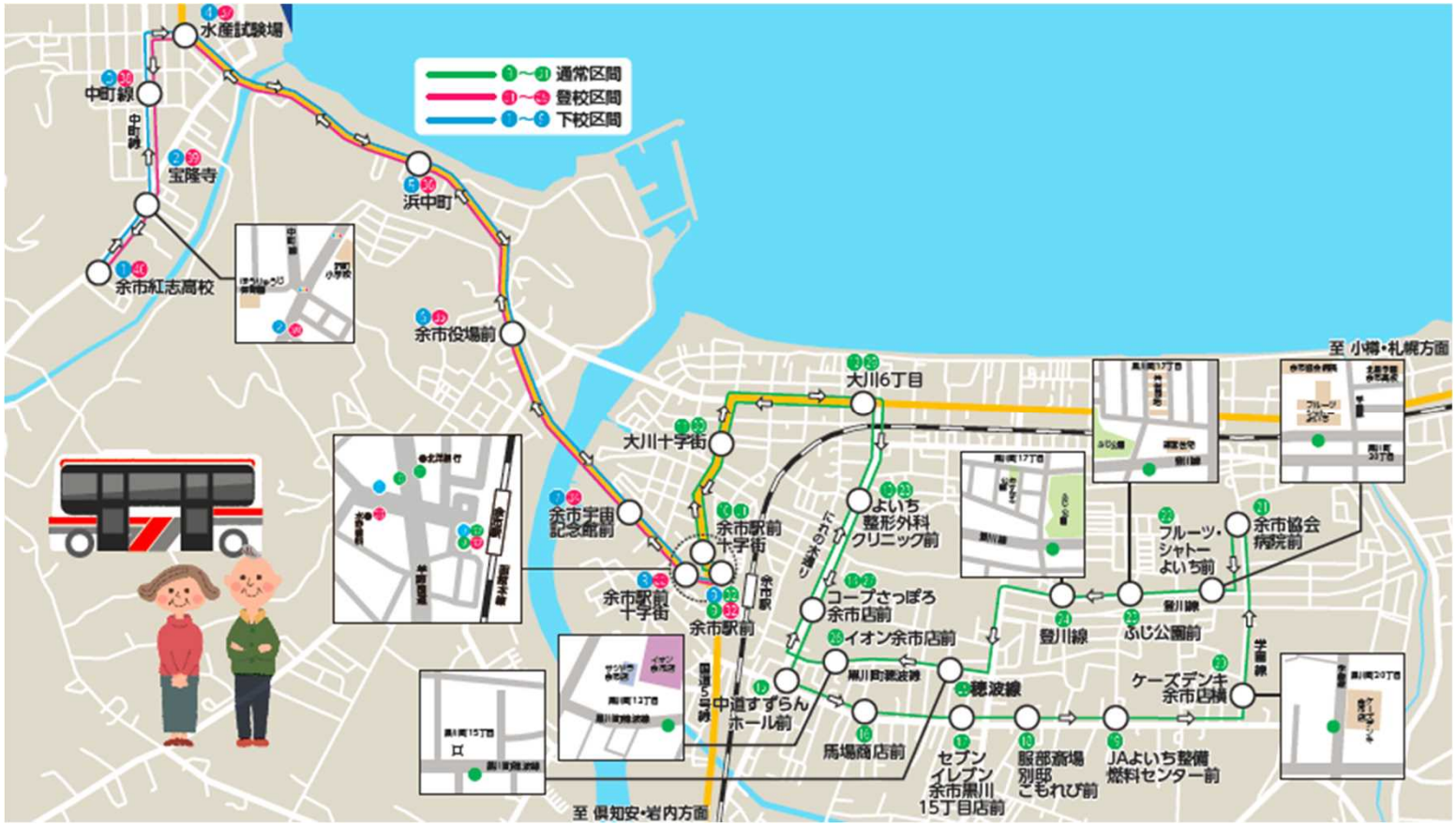
令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

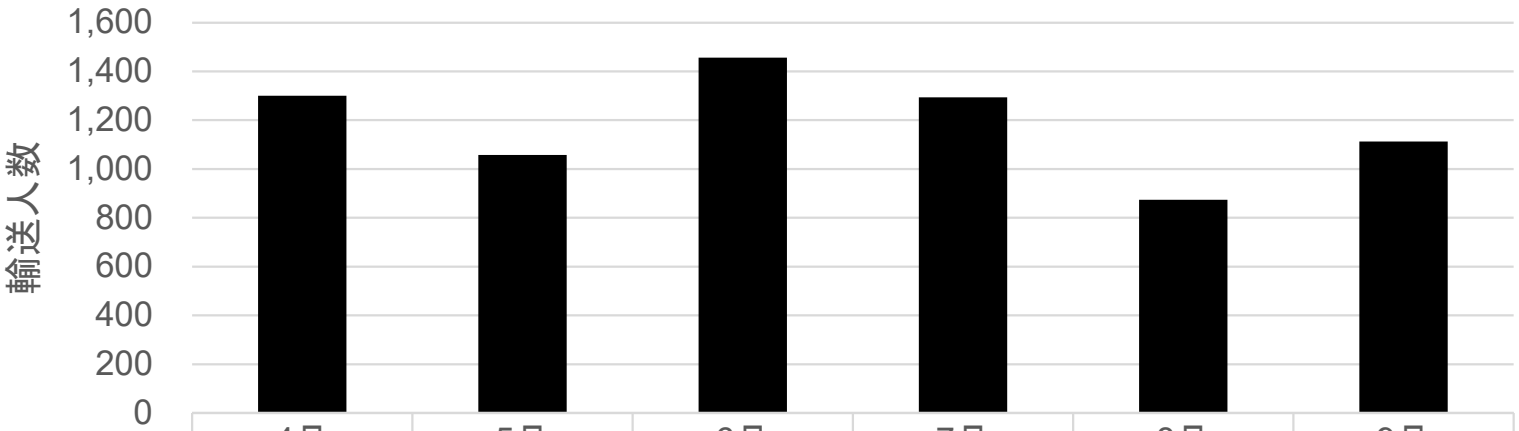
【プロセス】協議会の中から、特に本事業を専門に検討する分科会を設置し、町民意見をもとに検討を行い事業計画を策定した。その計画の実施が令和4年4月からである。
【創意工夫】①R3に実証運行を実施②路線設計にあたって持続可能性の観点から長大路線とならないよう検討。
③幹線バスや鉄道との乗継の容易さに配慮。④生活路線であるため、住宅街の最寄りを運行したく、狭小な道路でも運行可能なように小型のバスを導入。

２）運行系統

運行系統：
①余市循環線（登校便）
➡右図緑色＋赤色
②余市循環線（通常便）
➡右図緑色
③余市循環線（下校便）
➡右図青色＋緑色

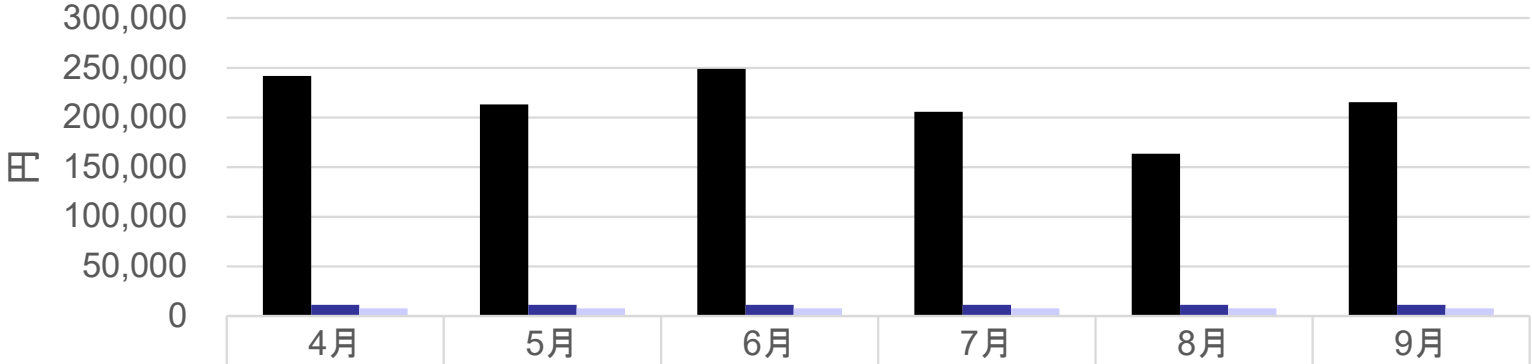


３）利用実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
■月別輸送	1,300	1,057	1,457	1,294	874	1,112	計7,094

４）収入実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
■運送収入	241,874	213,047	248,845	205,662	163,548	215,253	計1,288,229
■運送雑収	11,234	11,234	11,235	11,235	11,235	11,235	計　67,408
■営業外収益	7,635	7,635	7,636	7,636	7,636	7,636	計　45,814

5）事業実施の適切性

①運行便数
登校便：平日2便、休日１便
通常便：平日１便、休日１便
下校便：平日３便、休日１便
➡いずれも当初計画通りの運行を実施
②運賃　法定協議運賃として計画通りに実施
③実施主体　計画通りの実施主体にて運行実施
他、周知活動として利用案内パンフレットの配布を4月に町内全戸配布。新規車両（低床）による快適性の向上が叶った。

6）目標・効果達成状況

①余市循環線の年間輸送人数は目標値17,350人に対して7,094人であった。
②余市循環線の収益率55%に対して29%であった。
①②に関して、本事業が今年度からの運行であるが、それに対する利用者への浸透期間がもうまだ必要であると考える。また冬期間の需要は高いと判断しているが、夏期間の需要が想定よりも下回っていた。①について旧余市協会病院線及び旧余市紅志高校スクール便の合算値から目標値を積算しているが、この場合の目標値は運行総キロ数としてみると大きな差が発生しており、旧余市協会病院線との1kmあたりの輸送人員等からみると増加もしているため、目標値についての再検討が必要かと考えるため、今後の計画時に協議。
③余市循環線の行政負担額
目標値1,950千円に対して見込み値1,871千円
④余市循環線のバス事業社負担額　0千円に対して見込み値0千円となり、目標値は達成する見込みである。

車両減価償却費国庫補助金についての状況についても目標値は同じである。

7）事業の今後の改善点

令和4年4月が初事業となり、まだ運行結果を注視する段階にあると考えるが、目標値として設定した輸送人数と収益率に達していない。
今後、主に冬期の実績に注視し、需要に合わせた路線への変更を再度検討する。
また、現在は住民への浸透期間であると考えるが、引き続きパンフレット等による周知活動をより行うことで「持続可能な公共交通」として根付くようにしていきたい。
この他、余市町地域公共交通活性化協議会において、郊外部の交通空白地域の交通手段を検討しており、この交通手段との接続もできるようにしていく。

8）地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 一部目標を達成することはできなかったが、今後の改善点として認識しているとおり、周知活動等を通じて利用ニーズのくみ上げを行い、利便性の向上を図るとともに、地域公共交通計画に基づく利用促進の取組を継続することを期待する。